園長だより

７月号

Ｈ２８．６．２４
新渡戸文化子ども園

「集団」と「個」

新しい環境にも慣れ、年長組では当番活動が盛んになっています。出席調べ、給食室に全園児の出席人数を毎日知らせる、砂場の朝の準備、図書コーナーの整理、等々。お当番の日になると楽しみにして登園をしてくるお子様もいます。

では、どうして年長組になるとこのように自分の事だけでなく他者のために何かをしたいと思えるようになるのでしょう？

それは、それまでの年少、年中での経験にあります。

入園したばかりの年少さんでは、「個と先生」の信頼関係の構築が大切な経験となっていきます。「おかあさん、おとうさん以外にも、信頼をしてよい大人がいてその人を先生と呼び、そしてその先生はいつも楽しく、優しく、時には知らない事を教えてくれるので私の先生大好き。」と思える。

さらに年中さんになりますと「集団と先生、個と友達」の信頼関係を持とうと、友達にも目が向き初め、笑ったり泣いたり、悔しかったり、あやまったり、感謝したりの経験が始まります。幼稚園では一番心が揺れ動く時期です。「先生は、自分一人の先生ではなくみんなの先生で、みんなと何かする時には、先生がしっかりと教えてくれる。そして、先生だけでなく友達と遊ぶ事も楽しく、〇〇ちゃんと遊ぶ事は好きなんだけど、時々思い通りにいかなくて、ぶつかってしまって困ったな。でも先生が助けてくれるので、またすぐ仲直りをして大丈夫。」と思える。

それらの経験の積み重ねが、「家族以外の人を信頼する」という大きな土台となり、年長組になり、初めて「園全体に関わる人全てと、集団と個を理解し関わる」経験と広がっていきます。そしてそれが、小学校就学へ向けての大きな成長へと繋がっていきます。この１年間の成長は目を見張るものがあります。「先生や友達だけでなく、給食室にも職員室にもたくさん先生がいて、年少さんはまだ小さいから助けてあげよう。年中さんは、友達同士でケンカをしている事が多いから、間に入って解決してあげよう。なにかしてあげれば、先生も助かるかもしれない。助けてあげるだけでなく、自分の責任でしなければならない事をした時には、なんとなく気持ちよく自信がついた。」と思える。

これらの年齢による発達をしっかりと把握せずに、年長組で適している活動を年中組に前倒しをすると、子どもは窮屈さを強く感じ、いざ年長組になった時にまるで年少さんかと思えるような行動を起こします。例えば、当番活動などは、目新しい事ですから年中組でもすぐできるかもしれません。しかし、当番活動で人のために何かしようと集団の心はまだ育っていませんから、まだまだ個を大切にしてあげたほうがベターです。結果、当番活動は、自分からするのではなく、やらされている感を強く感じてしまいます。しかし、年長組になると人のために何かしようと集団の心は育ち始まっていますから、集団の中で活躍し、当番活動で注目されている事を実感し自信になり、それに比例して個が確立し、やらされているのではなく、やりたいと自分からするのです。やらされているか、自分から主体的にするかは、幼児教育で一番大切なポイントかもしれません。

幼児の発達に沿った当番活動を通し、心身の発達に合わせた集団と個の関わり方をプロとしてしっかりと見据え、今の学年では何を子に経験させるべきなのかを、学園そして子ども園の教育理念、教育方針に照らし合わせ、子、先生方の経験の日々となるよう進めてまいります。

出来るからとなんでも早期にさせる事は、他の何か大切な育ちを失い、必ずしも良くないのかもしれませんね。